



公立大学法人島根県立大学 広報誌
オロリン

ORORIN

学長あいさつ

新体制ならではの役割と 特色を活かした 地域への取り組み

創刊号特集

地(知)の拠点
島根県立大学が始動!

学生活動紹介「doing」

被災地で活動する県大生
広がるボランティアの輪

県大へ
ようこそ!



島根県立大学
The University of Shimane
2013.11 創刊号

Vol.
01

公立大学法人島根県立大学広報誌 OROLIN 2013年11月10日発行 編集・発行/島根県立大学 企画調整室 〒697-4016 島根県浜田市新原町7-453-2 TEL.0855-24-4201 FAX.0855-24-2208 http://www.u-shimane.ac.jp/

看護をもっと身近に
大学と地域を
つなぐ。

しまね看護交流センター 10月1日開設

平成25年10月1日、島根県立大学出雲キャンパスでは、これまで行ってきた地域貢献と地域交流活動をさらに充実させるため、「しまね看護交流センター」を設置しました。センターには3つの部を置き、大学の機能を活かした活動を行っています。

1 キャリア支援

- ・看護実践力・助産実践力の向上
- ・公衆衛生看護実践力の向上
- ・看護教育力の向上 ・病院との連携
- ・卒業生・修了生のフォローアップ
- ・教育機関との研修支援

2 看護研究支援

- ・看護研究・教育研究に関する相談・支援
- ・研究成果発信の支援(情報発信の支援)

3 地域連携推進

- ・生涯学習 ・学生の地域交流・地域貢献
- ・教育機関との連携 ・産学連携 ・広報・広聴活動

お申し込み・お問い合わせ

しまね看護交流センター

〒693-8550 島根県出雲市西林木町151
TEL.0853-20-0220 FAX.0853-20-0227
E-mail:kango@izm.u-shimane.ac.jp

広報誌タイトル「オロリン」について

広報誌タイトルについて学内公募を実施し、島根県立大学のマスコットキャラクターの名前でもある「オロリン」に決定しました。

応募者 薄井 遼 さん(総合政策学部 学生)

【理由】「オロリン」は、私が大学で初めて見て以来、ずっと「可愛いな」と感じているキャラクターです。そんなオロリンがいろんな方に愛されるように、そして、その名前がついた広報誌が地域の方に愛され、手にとって読んで頂けるようにとの想いからこのタイトルにしました。

編集後記

このたび、地域の皆さまに「島根県立大学」がどのような取り組みを行っているかをお伝えし、本学により親しみを寄せて頂きたいと思い、この広報誌オロリンを作成しました。創刊号では「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」を目指す本学にふさわしい「地域との繋がりが・関わり」をテーマに特集や研究紹介・学生活動紹介を行いました。いかがでしたか? 広報誌に関するご意見・ご感想をお待ちしております。次号の「オロリンvol.2」は来年5月に発行予定です。どうぞお楽しみに!



島根県立大学の取り組みや最新情報は、ホームページでも配信しています。ぜひご覧ください。



島根県立大学
マスコットキャラクター
オロリン

島根県立大学

検索

http://www.u-shimane.ac.jp/

新体制の大学ならではの 役割と特色を活かした 地域への取り組み

平成21年の学長就任、その翌年に制定された「大学憲章」。そして、大学の特色でもある国際交流への取り組み。さらには地域活性化へ期待が高まる「COC」事業と、これからの島根県立大学における重要な3つのキーワードについて、本田雄一学長にお聞きしました。

公立大学法人島根県立大学理事長
島根県立大学学長
島根県立大学短期大学部学長

本田雄一

島根県立大学憲章に込められた
思いをお聞かせください。

本学は平成19年4月に、ひとつの県立大学とふたつの短期大学が統合され、「公立大学法人島根県立大学」となりました。大学憲章とは、この新体制の大学にふさわしい理念や考え方を大学内外に向けて分かりやすく表現するべく制定したものです。

内容は前文に記した、「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」「北東アジアをはじめとする国際社会の発展に寄与する大学」を実現するためのもので、これらを具体化したものを各憲章項目に込めています。

本学は教育分野、研究分野を異にする3つのキャンパスからなります。その組織体としての独自性や利点を活かした教員の連携と学生同士の交流。それらを踏まえた地域交流や国際交流といったものを推進するための柱となるものです。そして、「島根県立大学とはこんなことをやっているのか」と、皆さまに広く知っていただくための広報活動の軸としての機能。そして、それらを包括しながら、教職員から学生まで、大学構成員の常日頃の行動を計る基準となるもの。それが大学憲章の考え方でです。

島根県立大学の特色でもある
国際交流についてお聞かせください。

浜田キャンパスの場合、前身が国際短期

大学ということで、特に北東アジア地域との国際的な交流が盛んにおこなわれてきました。この資産を活かし、体制としてさらに強化していくものです。

教員主体でおこなう北東アジア地域との学術交流の他、学生の国際交流については、短期・長期の各種プログラムがあります。代表的なものとして、6割の学生が参加する異文化理解研修では、ホームステイを通じて、語学や文化を学びます。同じく短期では、IT分野で成長著しいインドや韓国企業、の海外企業研修も実施しています。

また、現在約40名の留学生を受け入れ、学内の国際交流会館で共同生活をおくっています。ここには数名の日本人学生がサポーターとして入寮し、日常生活の中で国際交流をしようという取り組みもあります。こちらから学生を送り出す、派遣留学制度では、留学先を北東アジアからアメリカにも広げ、また留学先で取得した単位を可能な限り本学の単位として認定する等の取り組みも始まりました。さらに、韓国ウルサン大学校との協定で、2年間の長期留学をお

こない、4年間で両校から学位を取得できる制度も来年度より本格的に始まります。このように、あらゆる国際交流を推進することで大学の特色をさらに打ち出し、学生には、これからの世の中を支える人材としての自覚をあらたに、そして、国際的な分野へ挑戦する足がかりにしてほしいと考えています。

「地(知)の拠点整備事業」(COC)を推進するにあたり、大学が果たすべき役割などお聞かせください。

COC取得は、大学憲章に明記したとおり、地域と双方向の関係で大学は成り立つという本学の前提を踏まえたいうえでの選択でした。COCとは、地域における知識の拠点づくりを目指す国の整備事業ですが、ここには、大学が地域の再生と振興という役割を全組をあげて担うという考え方が含まれており、地域に密着する公立大学にとって、これほど最適な事業はないと認識しています。

本学では「共育」「共創」「共生」に向けた「縁結びプラットフォーム」と名付けた事業計画のもと、地域のさまざまな課題に取り組みますが、なかでも、少子高齢化、過疎化、限界集落等、島根県が抱える大きな課題点を研究課題として取り上げ、その解決に向けた人材の育成等も担っていききたい。そして、地域医療分野なら出雲キャンパス中心に担う等、本学ならではの特色と機能性を活かした事業に繋げていけるよう、推進してまいります。



contents 目次

- p 01 ▶ 学長あいさつ
- p 03 ▶ 特集「大学COC事業」
- p 05 ▶ キャンパス紹介・研究紹介
- p 11 ▶ 学生活動紹介「doing」
- p 13 ▶ News&Topics

特集

COC
Center Of Community
The University of
Shimane

地域活性化の中心となる大学へ！ 地（知）の拠点・島根県立大学が動き出す

文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」とは、大学が自治体等と連携しながら、地域を志向した教育・研究・社会貢献を推進する活動を5年にわたり支援するもので、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在として、大学の機能強化を図ることを目的としています。平成25年度は、各大学等から319件の申請があり、その中から選定されたのは島根県立大学を含む52件でした。

持続可能な 共生社会の実現

●次世代の共生社会

- ・課題に対する継続的な取り組み
- ・育成人材の活動とネットワークによるさらなる活性化
- ・地域・分野・主体の横断・連携強化
- ・地域の自立と自律のための仕組みづくり

●産業育成

- ・地域イベント、伝統文化への学生参加による集落・商店街の賑わいの創出
- ・地域ニーズに対応した自治体への総合的政策提言
- ・地場産品・地産地消促進のための学生による実験的取組

●しまね地域マイスターを 認定した人材の輩出

- ・地域事情に精通し、課題対応できる人材（産業界）
- ・地域の集落・福祉マネジメント（行政）
- ・地域をつなぐコーディネータ（NPO）
- ・保健・医療・福祉のプロフェッショナル（医療福祉）

●地域再生・活性化

- ・高齢化・過疎化する地域に学生を送り出し、世代交流と活力をもたらす集落支援事業
- ・歴史、伝統文化、伝統工芸など地域特性を活かした高齢者・若者の雇用創出
- ・安心して暮らせる医療・福祉、在宅介護支援の確立

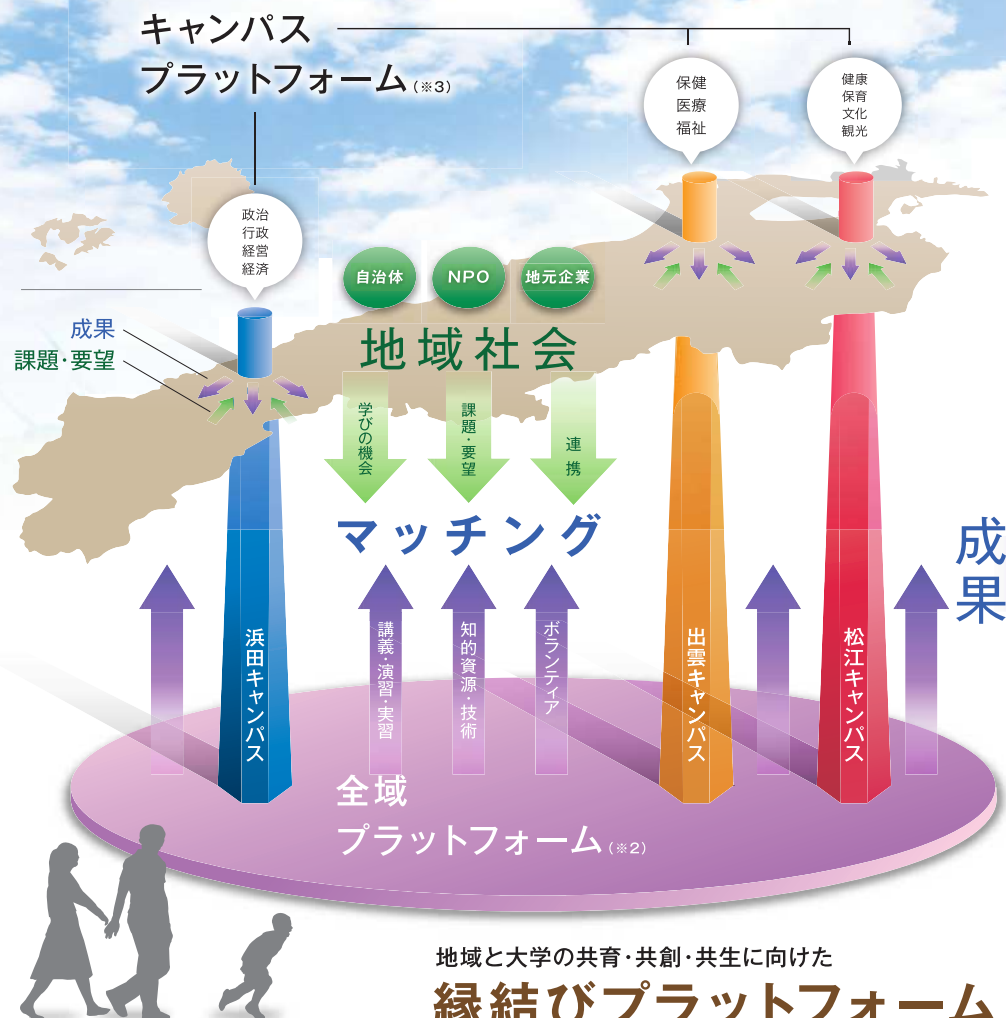
※1)「共有」「共創」「共生」とは
「共有」…地域とともに人材を育む
「共創」…知見を集積し、住みよい地域の姿を創造する
「共生」…地域の良さを活かし、持続的・自律的に発展する

※2) 全域プラットフォームとは
広域かつ複合的な課題に対して、3キャンパスが専門性を結集し、連携して課題解決・地域活性化を推進する機能

※3) キャンパスプラットフォームとは
各キャンパスの専門性を活かし、従来の取り組みを基盤として課題解決・地域活性化を推進する機能

Interview

大学と地域社会を縁結びする画期的なプラットフォーム事業
各キャンパスとその地域のさまざまな課題に対し、大学すべての教職員と学生が等しく参画できるシステムの構想が本事業の出发点になりました。
そして完成した「縁結びプラットフォーム」は、大学と地域社会（自治体・NPO・地元企業等）が「共有・共創・共生」に向けて、柔軟かつ円滑に協働するための仕組みを表すものであり、人や団体が、地域の垣根を超えて、それぞれの課題を持ち寄り、その解決に向けて大学ができることを考



地域と大学の共育・共創・共生に向けた 縁結びプラットフォーム

- 地域からの要望と大学が持つ知的資源や技術とのマッチング
- 「共有」「共創」「共生」(※1)の各種取り組み
- 取り組み結果の地域間での共有

文部科学省
地(知)の拠点

地域連携
推進センター
副センター長

小泉 凡 教授
(松江キャンパス)

齋藤 茂子 教授
(出雲キャンパス)

田中 恭子 准教授
(浜田キャンパス)



COC事業責任者
地域連携推進センター長
林 秀司 教授

え、実行するための場所です。
また島根県では、過疎化や少子高齢化など、長期的な取り組みを必要とする課題が多く、それらの解決に向けた持続的な活動を可能にするための基盤にもなります。
地域の「地（知）」の拠点として具体的な取り組みも始動
本事業に関わる、地域コーディネータや専属スタッフなどを配置するなか、出雲キャンパスではしまね看護交流センターがオープンしました。ここでは、地域から大学の要望だけでなく、研究、看護師の再教育、医療講演会の相談等、地域医療に関する総合窓口として機能させ、必要に応じてプラットフォームの機能性を活かした取り組みへと展開していきます。

青い海と広い空を望む、自然に包まれた浜田キャンパス。左右シンメトリーにデザインされた校舎やキャンパス中央に配された円形の講堂等が、近未来を想起させます。ここから、新しい未来を切り開く学生たちが育っています。

地域とつながる 世界へひろがる

浜田 キャンパス

HAMADA Campus
http://hamada.u-shimane.ac.jp/

講堂 Auditorium

キャンパスのシンボル・円形の講堂です。最大500インチのスクリーンを備え、同時通訳ブースと無線LANも完備。600名の収容が可能で、式典や国際シンポジウム等が開催されています。地域貢献・施設の有効利用の観点から、講堂を一般の方にも利用いただけます。また、各種講演会等を地域の方にも聴講していただけるようにしています。



施設Pick Up!

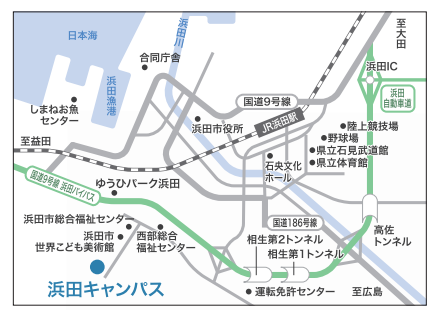
メディアセンター Media center

図書閲覧室、ラーニングコモンズスペース、コンピューター演習室2室、多目的演習室、教材編集室等があり、図書約18万冊、雑誌約600誌、新聞20紙、AV資料約3700点を有します。学生が意欲をもって取り組めるように工夫され、最先端のICT施設としても機能しています。静かな館内は自習に最適です。

メディアセンターは、「図書館機能」「情報処理センター機能」「語学教育支援機能」の3つを有しています。特に図書館機能では、学習支援サービスや研究・教育支援サービス、生涯学習支援サービスをおこなっており、利用者に必要なあらゆる学術情報を提供することを第一に活動しています。



浜田キャンパスへのアクセス



● JR浜田駅より
路線バス(石見交通/大学線) ……約15分
車 ……約10分

● 浜田ICより
車 ……約10分



専門分野を活かした地域情報化への意欲的な取り組み

Research Report
研究レポート

インターネットやデータ集積に代表される情報科学の分野と経済学を結ぶ「情報経済論」が専門の金野和弘准教授。テレビでも取り上げられた「島根あさひ社会復帰促進センター」の経済効果研究から、「デジタルサイネージ」^(※1)を活かした地域情報化への取り組み等お聞きしました。

経済効果を導き出した共同研究

その専門分野を地域貢献に向けたあらゆる取り組みに活かしている、金野和弘准教授。なかでも、PFI^(※2)方式による矯正施設「島根あさひ社会復帰促進センター」の経済効果研究は、NHKで紹介される等注目を集めました。

デジタルサイネージを高齢化社会で活用する

また、地域の人々と直に関わる取り組みとして、川本町商工会による買い物支援プロジェクト「こぞくくん」にアドバイザーとして参加しています。「川本町唯の総合病院を高齢



川本町内唯一の総合病院の待合室に設置されたデジタルサイネージ。商品情報などを発信。

「地域への経済効果が期待されていた同センターですが、運営開始から5年間、その経済効果が未調査のままでした。そこでゼミの研究課題として、経済効果を調べ始めたところ、運営企業の企業秘密等が壁となり、データ収集が困難に。そこで、地元浜田市との共同研究に応募し採択。同センターや浜田市、島根県の協力を得てデータを収集し、経済効果を発表(※図表参照)することができました」(金野准教授)。



ゼミ活動の風景。デジタルサイネージの活用方法について考える。

者のための情報拠点と捉え、デジタルサイネージで地元商店の情報随時発信。さらに宅配と連動することで買い物支援に繋がります」(金野准教授)。

このような、時勢に応じた地域情報化の取り組みを通じて「地域の橋渡し役」になりたいという金野准教授。今後も人を大切にしたい情報化の取り組みが続きます。



総合政策学部(浜田キャンパス)
金野 和弘 准教授

■専門分野:情報政策論
知的財産の経済分析、地域情報化政策等の研究が専門分野。「島根あさひ社会復帰促進センター」の経済効果研究や、デジタルサイネージを利用した地域情報化への取り組み等をおこなう。

※特別目的会社(special purpose company)の略

※1 情報通信技術を活用した広告ディスプレイ、「川本町買い物支援プロジェクト」の場合、商店主が自らの携帯電話から発信した情報がその表示される等、その機能性や利便性を活かした情報が提供される。
※2 PFI(Private Finance Initiative:プライベートファイナンス・イニシアティブ)、公共施設等の建設、管理、運営等をそれぞれの役割を専門とする民間企業が分担しておこなう手法。

神話の里・出雲に立地するキャンパスは、緑の芝生と樹木に囲まれた八角形の広場や、正面玄関横に配されたやさしさと思いやりのシンボル「あかね雲」のモニュメント等、穏やかな空気が漂っています。学生一人ひとりの夢がここから始まります。

「ひと」を支え「地域」を支える 出雲 キャンパス

IZUMO Campus
<http://izumo.u-shimane.ac.jp/>

施設Pick Up!

■ しまね看護交流センター

看護実践の質の向上に資する専門知識や技術の教授、研究活動に対する支援、研究成果等の情報収集及び発信をおこなうとともに、看護学の教育研究活動を通して得られた成果を広く地域社会に還元する拠点として、平成25年10月1日に開設されました(1号館3階)。
看護分野において地域と関わる担当窓口を一元化するほか、保健師・助産師・看護師に対する研修の実施、有資格者の復職支援活動にも取り組んでいきます。症状に応じた心電図、心音、呼吸音等がプログラムされた看護シミュレーターや、妊娠24週目の胎児の模型でエコー診断をおこなう機器を導入する等、環境も整っています。

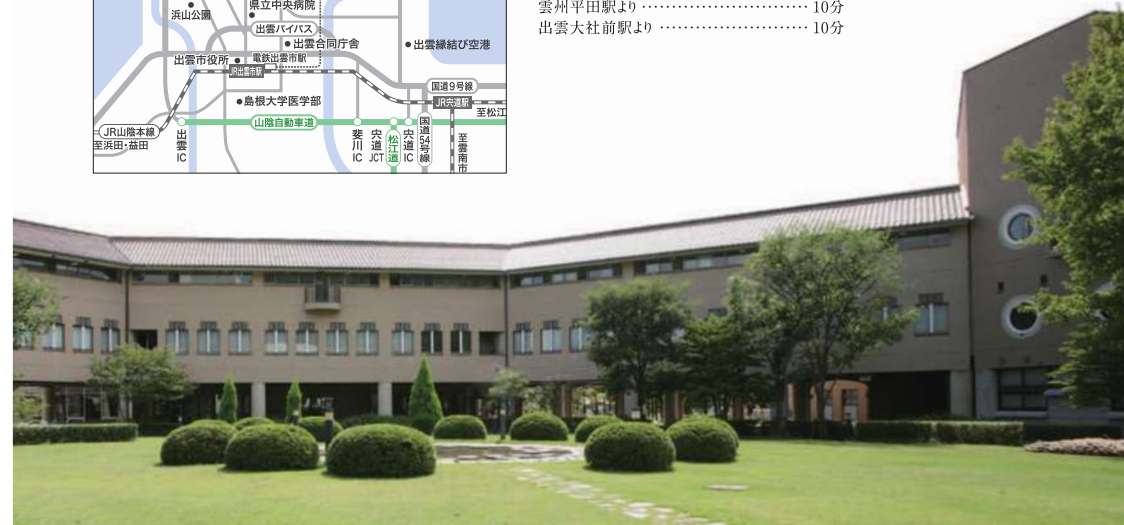


○お問い合わせ TEL.0853-20-0220
<http://izumo.u-shimane.ac.jp/kangocenter/>

出雲キャンパスへのアクセス



- 一畑電車「川跡駅」より
徒歩.....5分
- 一畑電車「川跡駅」まで
電鉄出雲市駅(JR出雲市駅隣接)より.....10分
雲州平田駅より.....10分
出雲大社前駅より.....10分



Research Report 研究レポート

「エゴマ」が広げる、地域活性化への新たな歩み

アルツハイマー病予防で注目される地中海式料理と、認知症予防の効果があるとされるエゴマ。その2つを組み合わせたメニューを使った認知症予防研究で成果を上げた、山下二也副学長。さらに、その研究地域であり、エゴマ特産地でもある邑智郡川本町で展開する地域活性化へのさまざまな取り組みをお聞きしました。

エゴマと地中海式料理で認知症予防の効果を確認

「エゴマ油に含まれるαリノレン酸は、体内で認知症予防に高い効果があるとされるDHA(ドコサヘキサエン酸)に変化します。これを出发点に、高齢者の方々にオリーブ油の代わりにエゴマ油を使った地中海式料理を日常的に摂取していただき、各種認知機能検査を用いた研究に取り組んでまいりました」と言う、山下二也副学長。

実施期間は2年間。エゴマを



料理教室で作ったメニューの一例。トマトリゾット、サラダニョワーズ、すずきのソテー香味ソース、グリーンポタージュなど。

大学と地域社会が協働する産業・教育への意欲的な試み

特産品として推進する川本町の地元病院協力のもと、エゴマ油を摂取する・摂取しないの2グループの高齢者に分けて実施されました。その結果、摂取したグループの認知機能等の数値が向上。この成果は学会でも発表され、エゴマ油による認知機能低下の予防効果が認められました。

山下副学長はこれを受けて、エゴマ油商品の開発を基盤とする、川本町の地域活性化を本格的に開始。これは大学だけでなく、地域医療機関、民間企業などが協働する、CO-C事業・縁結びプラットフォームで推進していくものです。

また、検査を実施した川本町の病院では、看護学部が学生研修を継続中で、これは医学



川本町の病院で研修を受ける看護学生たち。今後、医療に関わる多分野の学生が集まる取り組みが期待される。

生、薬学生、理学療法士等と一緒に研修をおこなうことで、多職種医療人協働教育「マルシェ」構想へと繋がります。

「マルシェ(市場)のように、各医療分野の学生たちが集まり、チームで研修する、これまでになかった教育手法です。これを成功事例に、他の地域にも発信していきたい」(山下副学長)。



看護学部(出雲キャンパス)
山下 一也 教授
■専門分野:神経内科、神経心理学
島根県立大学副学長(出雲キャンパス)。高齢者の認知症予防における非薬物療法についての疫学調査等についての研究をおこなう。

60年余の伝統を育む松江キャンパスには、レンガ色のお洒落な校舎が建ち並びます。周囲には、運動公園や古代の遺跡があり、遠く宍道湖を望む風景も広がっています。静かなたたずまいの中で、成長へのドラマが綴られています。

明日への力を蓄え 自分を創造する

松江 キャンパス

MATSUE Campus
<http://matsuec.u-shimane.ac.jp/>

施設Pick Up!

■ おはなしレストラン ライブラリー Ohanashi Restaurant Library

「たくさんステキな絵本と出会って、「夢いっぱい 心いっぱい」になってほしい」、そんな思いが詰まった絵本の図書館です。本の形をしたテーブルや、絵本の表紙が見えるようにと特別に作られた本棚など、随所にこだわりが光る居心地の良い空間です。国内外のすぐれた絵本を中心に児童文学作品を収集、貸出しています。海外の絵本を通して、諸外国の文化に触れることもできます。また、松江キャンパスの学生と司書による絵本の読み聞かせやストーリーテリングなども毎週日曜におこなっています。

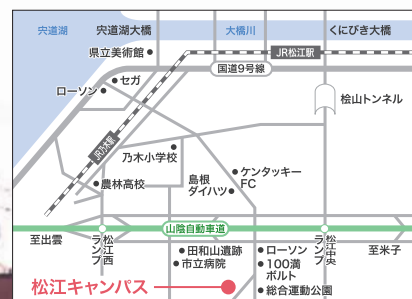
誰でも気軽に訪れることができ、おはなしを通じた地域交流の場にもなっています。



○開館時間
水～金曜 10:00～18:00
土日曜 10:00～17:00
○休館日
月火曜、祝日、年末年始 ほか
○おはなしの時間(絵本読み聞かせ)
毎週日曜 11:00～11:30
<http://www.oha-res.com/library/>



松江キャンパスへのアクセス



- JR松江駅より
車……………約15分
南循環外回り「県立短大前」下車、徒歩…約1分
- JR乃木駅より
車……………約5分
- 松江中央ランプ・松江西ランプより
車……………約2～3分



M

Research Report

研究レポート

西条柿の可能性を広げる新しい技術の開発を

島根県特産の「西条柿」の消費拡大を目指す、生産が難しい「熟柿」を安定的に作り出す技術を確立させた、健康栄養学科の赤浦和之教授。東出雲の柿生産農家との食品開発や、その熟柿製造技術を応用した「柿ビュール」の新たな展望等お聞きしてきました。

西条柿の利用価値を高める熟柿を安定供給する新技術

果物の栽培から貯蔵・利用等の「果樹園芸」を専門とする赤浦和之教授。その専門分野を地元産品で活かさないか？という見地から着目されたのが「西条柿」でした。

「あわせ柿や干し柿だけでなく、熟柿としても美味しい西条柿ですが、短い賞味期間などの問題もあり、今まで利用度が低かった。そこで熟柿の新たな食品加工技術を開発し、消費拡大に



加熱しても洗戻りせず、かつ鮮やかな色を残したビュール。舌触りが滑らかで、柿本来の味がそのまま残る。

繋げたいと考えたのがはじまりです（赤浦教授）。

熟柿を食品利用する際の課題は、柿が完熟したことが分りにくいこと、その分りにくさからくる一定量の確保が難しい点があると赤浦教授は言います。

こうした課題に取り組んだ結果、人工的に熟柿を作り出す技術開発に成功。その成果のひとつが「熟柿のビュール」です。

食材として年中味わえる「柿ビュール」の新たな展開

「このビュールは、傷ついて商品価値のなくなった熟柿を利用する手立てとして開発しました。低コストであり、冷凍保存が可能なので、ジュースやお菓子等の原料となるのが利点です」（赤浦教授）。

この技術を受けて、東出雲の柿農家とのビュール生産や商品開発も実現。今年6月には、柿ならではの風味を活かした「酢まね柿サイダー」と「酢まね柿っこ」を開発



炭酸飲料「酢まね柿サイダー」(右)と、柿果汁入り飲料の「酢まね柿っこ」。ビュールに柿酢をブレンドし、さわやかな酸味とやさしい甘味が楽しめる。

「サイダー」と「酢まね柿っこ」というオリジナル飲料も誕生しました。

また、二年を通じて柿の味わえるビュールについて、「既存の柿ビュールに較べても、味・品質ともに優れている」という自負があります。今後は、技術の普及活動はもちろんです。洋菓子店との共同商品開発が進行中。さらに利用価値を広げたい」と赤浦教授。

西条柿の新たな展開に大きな期待を寄せています。

健康栄養学科(松江キャンパス)

赤浦 和之 教授

■専門分野:食品学、食品加工学、園芸利用
島根県特産の西条柿の消費拡大のため、熟柿という、古くて新しい付加価値を持つ利用法を開発。熟柿のビュールを使った加工食品の開発もおこなう。



柿農家の福岡博義さん(右)宅の作業場にて。この場所から、西条柿を利用した様々な商品のアイデアが生まれている。

学生活動紹介

各地で活動する県大生！ 現地で実感した人との繋がりがから さらに広がるボランティアの輪

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、
そして今年7・8月に発生した島根県西部の豪雨災害。

松江・出雲・浜田各キャンパスの学生は

各地のさまざまなボランティア活動に参加してきました。
各キャンパスの学生に、活動に至るきっかけや
実際の活動の様子等を聞きました。



震災復興支援活動の経験を糧に、
ボランティアサークルを設立しました。

松江キャンパス 大西 葵 さん（総合文化学科 2 年）



学校生活では得られない社会経験を
してみたいという思いもあり、高校生の
頃からボランティア活動をおこなってきま
した。大学に進学してからは、震災復興
支援活動「いわてGINGA-NET
プロジェクト」や、松江市で開催された全
国図書館大会の運営サポート活動など
に参加しました。なかでも、ボランティア
に対する意識が変わったのは、岩手を訪
れた時でした。岩手（釜石市）では、炊き
出しや住民の引越作業、高校生の学習
支援など、さまざまなお手伝いをさせて

いただきましたが、そのなかで、人の輪か
ら生まれるボランティア力の大きさを実
感することができたのです。

そうした意識の高まりから、有志3
名と学内にボランティアサークルを設立
しました。現在ではメンバーが14名となり、
少しずつですが大きな力に育ちつつあり
ます。サークルでは、出雲の農家へ出向
いて、リンゴの袋かけ作業のお手伝い
から活動をスタート。また、「いわて
GINGA-NETプロジェクト」支援
の一環として、学内募金活動等をおこな
いました。これからも新しい活動を考え
て、今後輩達とともに私たちのボラン
ティアサークル活動を未だ進めていけ
ばと思っています。



1. 自ら設立したボランティアサークルの仲
間たちと、リンゴ農園で袋かけの作業をお
こなう。 2. 岩手での炊き出しのひとつ。

「いわてGINGA-NETプロジェクト」の
ボランティア活動に参加してきました！
出雲キャンパス 熱田 あかね さん（看護学部 1 年）



この夏、全国の大学生が岩手に
集まる震災復興支援活動「いわて
GINGA-NETプロジェクト」に参
加してきました。

被災地の方々に何らかの支援をした
いと思いつけていたので、学内掲示板に
貼られたボランティア参加者募集のチラ
シを見つけたときに「大きなチャンス」と
感じ、すぐに申込みました。

現地での活動期間は4日間でした。
最初に被災地の現状を把握するため、
被災時のまま残っている防災センターや
役場を見学し、その後、それぞれの担当



1. 復興農園での作業風景。2. 「いわてGINGA-NET
プロジェクト」に参加した、各キャンパスの県大生と。

地区に分かれて活動を始めました。私
が参加したのは、岩手県の大槌町にあ
る復興農園です。ここでは、今も仮設住
宅での暮らしが続く被災者の方々のた
めに野菜栽培を行っています。現場スタッ
フの不足を補うため、草抜き等農作業
のお手伝いをしました。雨天で作業がで
きない時には、仮設住宅でお年寄りの話
し相手等をさせていただき、現地の方々
の生の声を聞くことができました。
この経験で痛感したことは、想像して
いた以上に被災地の復興が進んでいない
ということです。この状況を高根の人々
にどんな発信しなければと考えていま
す。そして、冬休みにおこなわれる活動
に再度参加しようと思っています。

今まで積み重ねてきたさまざまな活動が
災害ボランティア活動に繋がりました。
浜田キャンパス 十川 ちひろ さん（総合政策学部 3 年）



高校生の頃から障がい者の方々のサ
ポートなどやってきましたが、自分のや
りたいことや興味のあることが、結果的
にボランティア活動に繋がっていたとい
う感じで、大学生になつからも、その感
覚のまま、いろいろな活動に参加してい
ました。

ボランティアという意識が明確になっ
たのは、島根県災害ボランティア隊とし
て、東北の復興支援活動に参加したか
らです。やはり、被災地の状況を目の当
りにすると、自分の関心などどうでも
よくなつて、「困っている人々のために何か

手伝いたい！」という思いが芽生えまし
た。東北への支援活動は、これまで3回
参加しましたが、それ以外では、浜田
キャンパスの先輩たちが立ちあげたボラン
ティアサークルに入り、東北への物資支援
や義援金活動をおこないました。また、
このたび津和野や萩を襲った豪雨災害
でも支援活動をおこない、サークルでは
津和野へ。また、ゼミでお世話になつて
いる萩の方々のところと、どちらも水路を
確保するための泥出し作業等をお手伝
いしました。

突然の災害での活動はもちろんです
が、他にもさまざまな支援の形がありま
す。今後は自分に合ったものや、自分の
力が発揮できる活動に絞つて、長く深く
関わっていくことも考えています。



津和野町での活動風景。水路確保のため
の泥出し作業を、地域の方や他のボラン
ティア団体の方々とともにこなう。

島根県立大学未来ゆめ基金へのご協力に心よりお礼申し上げます

「島根県立大学未来ゆめ基金」につきまして、平成24年10月1日から平成25年10月15日までの間に、個人154名、法人・団体等28名の皆様から総額3,475,000円のご寄附をいただきました。皆様のご協力に厚くお礼申し上げます。ご寄附をいただきました皆様へ感謝し、ここにご芳名を掲載させていただきます。

【個人からのご寄附】

| | | | |
|--------|-------|-------|--------|
| 家本 賢 | 越野 稔子 | 寺本 耕作 | 松本 良雄 |
| 石橋 純一 | 近藤 武司 | 徳島 光人 | 三島 功士 |
| 石原 祥樹 | 齋藤 昭博 | 豊田 芳明 | 三島 みどり |
| 伊藤 晴友 | 酒井 美月 | 長廻 誠 | 御堂 洋一 |
| 岩成 宏 | 坂根 清春 | 中山 文彦 | 三宅 文和 |
| 上原 守 | 澤 美智男 | 難波 俊一 | 宮仲 勇人 |
| 内田 明徳 | 西川 結美 | 杉林 省三 | 森澤 明彦 |
| 宇野 重昭 | 陶山 浩史 | 新田 英夫 | 安尾 弘 |
| 大石 宗男 | 仙田 徹 | 羽山 美佳 | 矢部 幹泰 |
| 大岩 滋人 | 園山 富重 | 原 真人 | 山口 勝彦 |
| 大場 幸恵 | 高橋 賢二 | 反田 昭雄 | 山下 一也 |
| 大矢 敬子 | 武上 起敬 | 平原 健二 | 山下 由紀恵 |
| 嘉手苺 邦光 | 武田 盛充 | 福島 亮 | 山田 勝明 |
| 門脇 弘政 | 竹谷 貴裕 | 藤原 孝行 | 山本 正敏 |
| 神岡 忠信 | 田中 信一 | 本田 雄一 | 湯川 啓一 |
| 紺本 春子 | 谷野 吉郎 | 横野 康一 | 吉田 照和 |
| 黒木 敬 | 田上 尚志 | 眞島 強支 | 吉田 照和 |
| 河野 幹夫 | 栢植 義文 | 益井 仁志 | 渡邊 秀 |

【法人・団体等からのご寄附】

| | |
|---------------|------------------|
| ALSOKあさひ播磨(株) | (株)御船組 |
| ALSOK山陰(株) | (株)もちだ園芸 |
| 石見ケーブルビジョン(株) | 山陰酸素エンジニアリング(株) |
| (株)岩多屋 | 山陰三菱電機機器販売(株) |
| (株)えすみ | (社)島根県社会福祉事業団 |
| (株)さんびる松江営業所 | 石尖商工会 |
| (株)中電工出雲営業所 | 東京靴(株) |
| (株)日産サティオ島根 | まるなか建設(株) |
| (株)ニッタ | 三菱電機ビルテクノサービス(株) |
| (株)ひらぎの | 和幸電通(株) |
| (株)松文オプテック | |

※五十音順、敬称略
※ご寄附をいただいた皆様の中で、ご芳名の公開を希望されない方につきましては掲載しておりません。
※申込書は本学ホームページにも掲載しておりますが、郵送もいたしますのでお問い合わせください。

事務局財務課 TEL:0855-24-2218



申込パンフレット

PRESENT

ご意見・ご感想をいただいた皆さまの中から抽選で10名様に、P10で紹介されている「酢まね柿サイダー」と「酢まね柿っこ」を各1本と、島根県立大学マスコットキャラクター「オロリン」のストラップをプレゼントします。ご意見は、本誌差込ハガキまたは、メールにてお寄せください。

※当選者のお知らせは発送をもってかえさせていただきます。
※応募締切/平成26年1月6日必着



■メールでの投稿はこちら
島根県立大学 広報誌オロリン事務局
E-mail: kikaku@admin.u-shimane.ac.jp



学生たちの夢の実現を支援する「キラキラ☆ドリームプロジェクト」がスタートしました。



公開審査会で、審査委員に向けて、審査委員に向けて創意工夫したプレゼンテーションをおこなう学生たち。

平成25年度より、学生(個人や団体)が自主的に企画する独自の魅力的なプロジェクトに対し、大学が費用を補助して夢の実現を支援する事業が始まりました。学内募集・公開審査会を経て、「The Co-Start」の夢探しの旅!プロジェクト「フチ留学体験プロジェクト」「ご当地絵本製作プロジェクト」「オリジナルスニーカー開発プロジェクト」の4つが採択されました。各活動の様子は、フェイスブックやブログ等で公開予定です。



復旦大学国際問題研究院と島根県立大学の合同国際シンポジウムを開催しました。



セッションごとに、コメンテーターとのディスカッションや質疑応答も行いました。

7月5日、交流センターにおいて、本学と復旦大学国際問題研究院(中国)との合同国際シンポジウムを開催しました。北東アジアにおける中国の役割、「朝鮮半島をめぐる新たな動向」北東アジアにおける経済協力」の3つのセッションを通して両者の知見を交換し、北東アジア協力の新課題についてどのように向き合っていくのか理解を深めました。シンポジウムには地域の皆様をはじめ本学の学生、教職員等約200名が集い、熱心に聴講されました。



隠岐をはじめ県内6市町で 学生が地域医療への理解を深めました。



隠岐郡海士町での研修風景。病院や診療所を訪れ、現場で働く方々から離島医療の実態を学びました。



8月下旬〜9月下旬、看護学部2年生の必修科目「島根の地域医療」で、学生が8グループに分かれ、島根県内の6市町(雲南市、川本町、津和野町、海士町、西ノ島町、隠岐の島町)で研修をおこないました。研修先のうち、隠岐郡海士町を訪れた学生11名は、まず町の概要や医療の現状等について説明を受けた後、2グループに分かれて海士診療所と、西ノ島町の隠岐島前病院を見学し、患者さんや医療に従事する方との交流を行いました。また、地域での保健福祉活動にも参加し、住民の方とも交流しました。このような研修を通して、県内の島嶼地域や中山間地域における地域医療への理解と関心を深めました。



平成25年度の内閣府海外派遣事業に 本学から3名の学生が参加しました。



内閣府がおこなう平成25年度の青年海外派遣事業のうち、「国際青年育成交流事業(募集人数48名)」と「日本・韓国青年親善交流事業(募集人数25名)」において、本学から3名の学生が選出され、参加しました。「国際青年育成交流事業」では、9月6日より18日間、浜田キャンパスの福田智之さん(総合政策学部3年)がカンボジアを訪問、「日本・韓国青年親善交流事業」では、9月3日より15日間、浜田キャンパスの上治陽香さん(総合政策学部4年)と松江キャンパスの大野光季さん(総合文化学科2年)が韓国を訪問しました。訪問先では、ディスカッションやスポーツ、ホームステイなどを通して現地青年との交流を行ったほか、国際協力活動の体験、教育・文化等の各種施設の視察を行いました。帰国後にはこのプログラムを通じて得た、現地の人々との交流、驚きや発見、訪問国事情等の体験や成果を発表する報告会を実施します。報告会は、平成26年2月に開催予定です。

1.浜田キャンパスでおこなわれた内閣府青年海外派遣事業の壮行会。浜田からは2名の学生が参加。 2.日本・韓国青年親善交流事業に参加した日本と韓国の学生たちと。 3.カンボジアにて。地域の子どもたちに日本の文化を伝える。

News & Topics

県大の今がわかる! ニュース&トピックス

